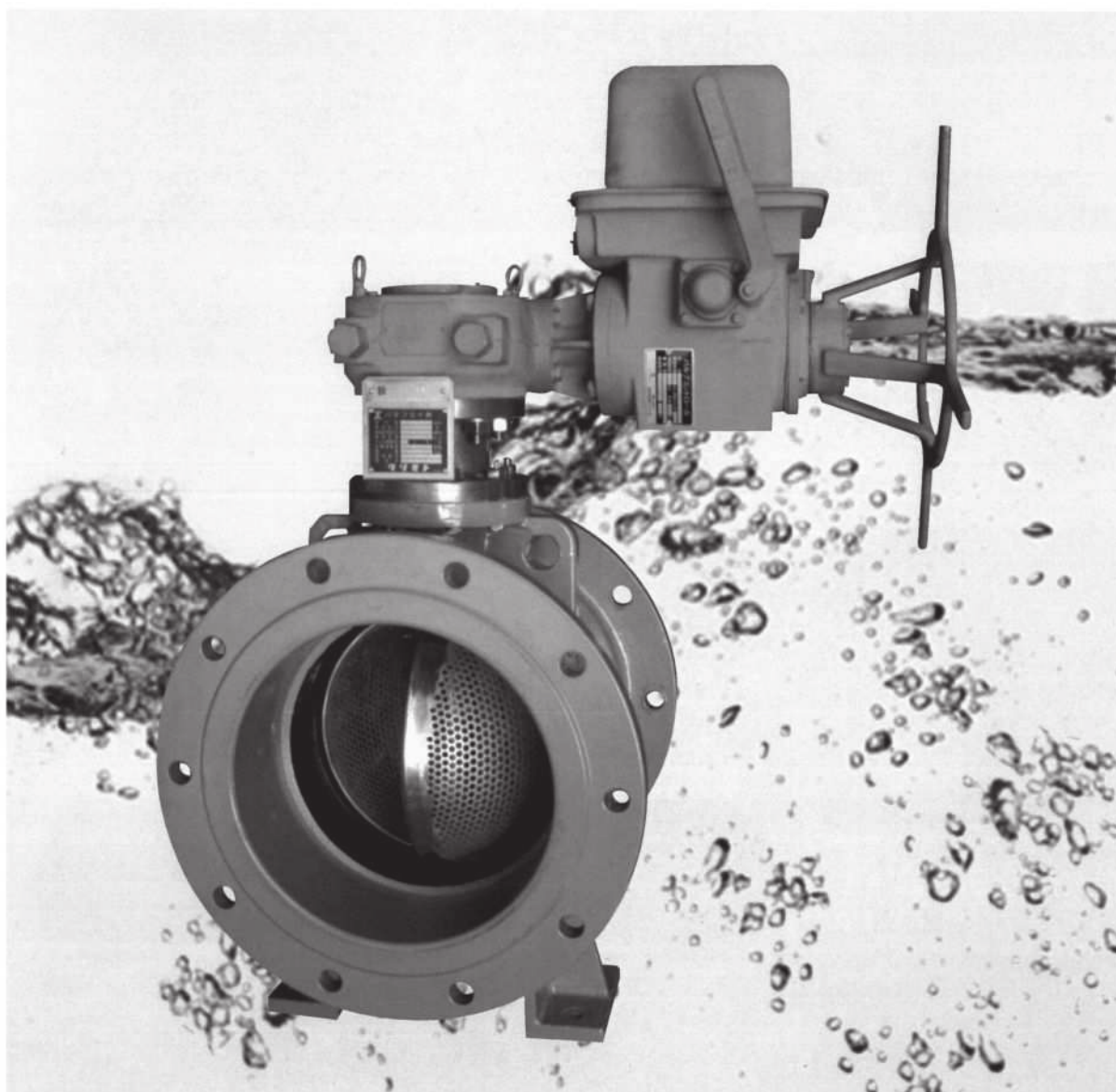


オリフィスバタフライ弁

高差圧でキャビテーションと騒音を抑制する流量調整弁

BT-1Q形

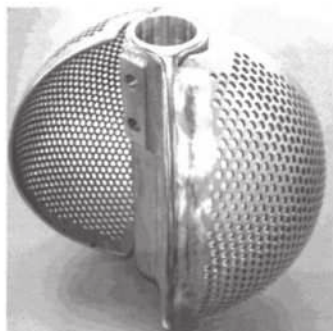


X 株式会社 栗本鐵工所

※価格は P151 をご覧下さい。

バタフライ弁では不可能だった高差圧の流量調整を

性能



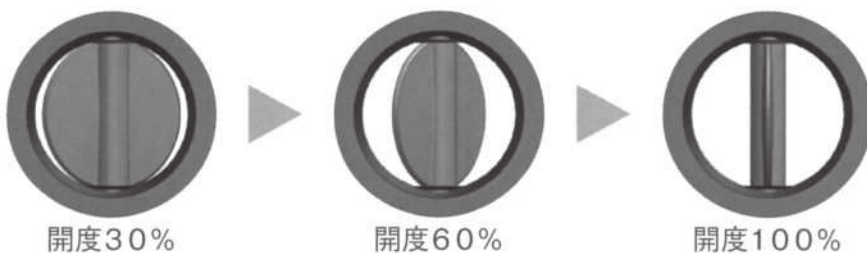
オリフィスバタフライ弁
弁体

- 1. 全開度でキャビテーションの発生を抑制** ※1フルガイド形の場合
全開度、多孔ノズルを通過して流水する^{※1}ことで、大流量調整が可能となりました。
- 2. 業界No. 1^{※2}の許容キャビテーション係数** ※2当社独自調査
流水面積を分散することで、多孔可変オリフィス弁と同等の性能値を実現しました。
- 3. 大流量において低騒音で流量調整が可能**
キャビテーション抑制により、大流量でも騒音を抑制する性能に優れています。
- 4. 従来バタフライ弁と同等にコンパクト**
バタフライ弁構造の採用で、スリーブ弁やグローブ弁よりもコンパクトです。
- 5. ゴムシートによる止水**
JWWA B 138水道用バタフライ弁と同一の止水性能です。

特長

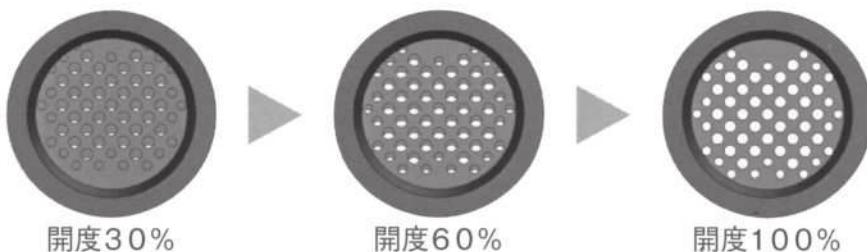
標準形バタフライ弁

弁開度が大きくなるに従って、開口形状が三日月形状に大きくなります。中間開度ではキャビテーションが発生しやすい流水形状です。



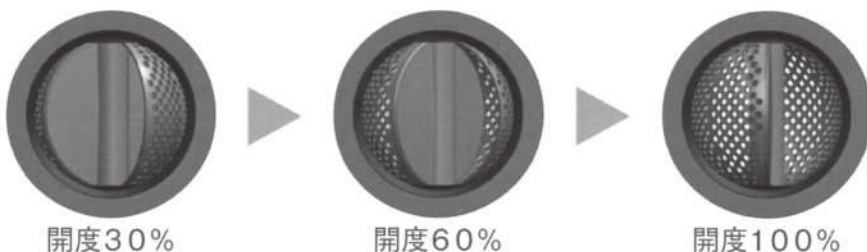
多孔可変オリフィス弁

弁開度が大きくなっても、細かく区切られたノズルから流水するため、キャビテーションの発生を抑制できます。



オリフィスバタフライ弁

弁開度が大きくなっても、多孔球ガイドによって、多孔可変オリフィス弁と同等以上に流水面積を細かくする構造です。これによってキャビテーションの発生を抑制できます。

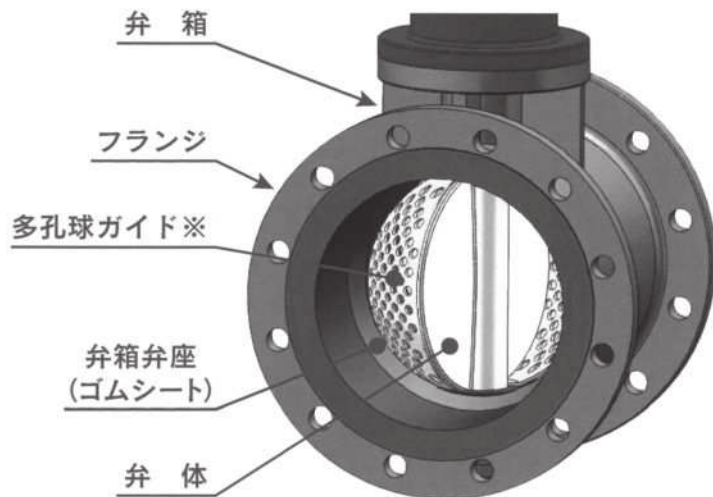


- オリフィスバタフライ弁の弁体は、標準形バタフライ弁と同様に90度回転します。弁体の多孔ガイドによって流水面積は細かく分散されることで、多孔可変オリフィス弁と同等のキャビテーション抑制性能を実現します。

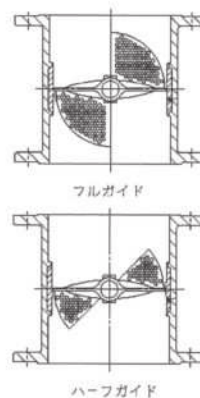
低騒音で実現するクリモト製オリフィスバタフライ弁

構造

オリフィス弁とバタフライ弁の構造を合わせ持ったハイブリッドバルブ



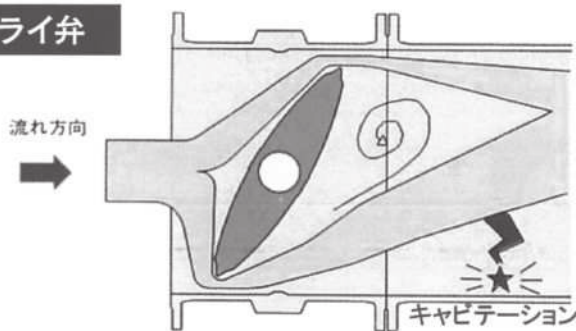
※多孔球ガイドには、大流量での流量調整に適した「フルガイド」と、全開時のエネルギーロスを少なくする「ハーフガイド」があります。



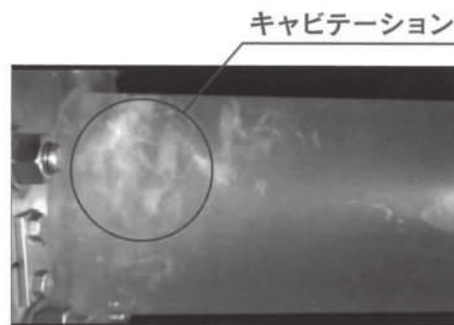
キャビテーション抑制性能

標準バタフライ弁は、下流側に渦流れが発生し、キャビテーションが発生します。一方、オリフィスバタフライ弁は多孔球ガイドによる整流・分流機能により、キャビテーション発生を抑制します。

標準形バタフライ弁

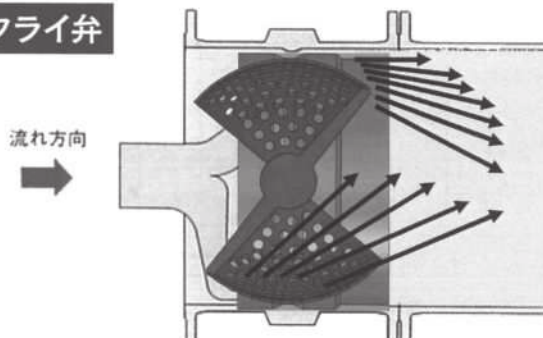


流水イメージ図

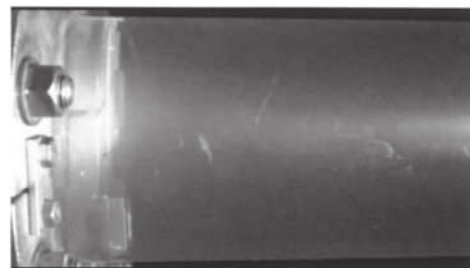


社内試験写真

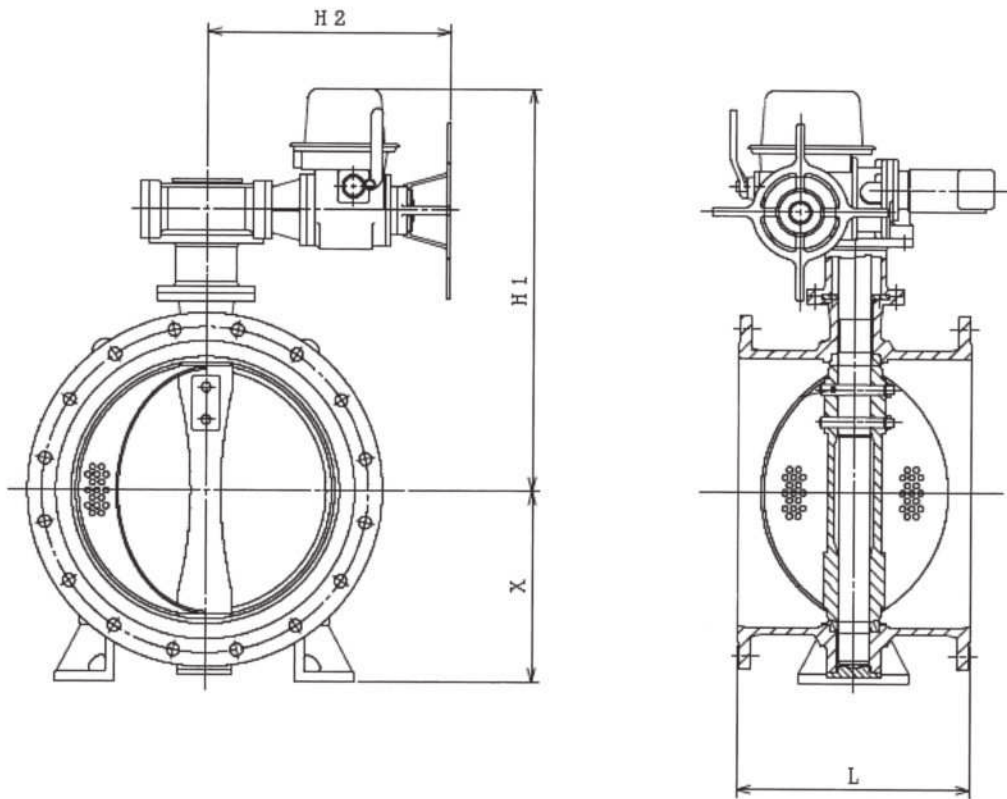
オリフィスバタフライ弁



流水イメージ図



寸法表



(単位：mm)

呼び径 D	面間 L	高さ		横 H2
		H1	X	
200	300	640	—	515
250	380	670	—	515
300	400	700	—	515
350	430	730	—	515
400	470	830	—	515
450	500	990	—	550
500	530	1030	—	550
600	560	990	450	550
700	610	1140	500	580
800	690	960	550	510
900	740	1050	600	510
1000	770	1100	650	540

- ・上表は電動操作式の寸法表です。その他の操作方法の場合はお問い合わせ下さい。
- ・呼び径1000以上も製作可能です。お問い合わせ下さい。